

噴水のあるテラスの制作

テーマ：水音を聞きながら語り合う場を

(その3 テラスの工事)

1. テラス工事の概略

テラス部分の工事としては

- 土の整地と余剰土の搬出
- 生垣撤去(柵沿いにあるウバメガシ生垣を撤去)
- 既設柵の撤去と目隠し柵の設置
- ブロック面への石貼り(既設モルタルブロックへの化粧貼り)
- テラスの板石貼り
- エントランス(入り口)部の造作

がある。

2. 土の整地と余剰土の搬出

《その1 土留め工事》に掲載したように、土は厚く盛られていたため、削り取った土は土留めした部分に入れ、余った分については、敷地内のほかの場所に敷き均します。

3. 生垣の撤去と柵の付け替え

テラス面積を少しでも大きく取るため、現地に植栽されているウバメガシの生垣を撤去します。

既設の柵は素通しの柵なので、視界が適度に遮られることと、噴水の水音が出来るだけ隣家(施工時はまだ空き地)に届かないように遮蔽柵に付け替えます。完全な遮蔽になると暗くなるためポリカーボネート製のすりガラス風の柵にします。



現地の生垣と柵



既設柵



新設目隠し柵

柵の新設工事は特注品となるので、製作メーカーに工事共で注文しました。

4. ブロック面への石貼り

柵の基礎は既設のものを転用したので、このままではモルタルブロックがむき出しとなります。このため割り肌仕上げのサビ御影板石をブロック面に貼りつけます。

石の貼り付けにはモルタル接着増強剤を添加したモルタルを使用し、ブロック面、板石面には予めモルタル接着増強剤を塗っておきます。



板石を1段貼り終ったところ



板石の貼り付け作業中

準備した材料は全面割り石仕上げなので、板石の4辺も凹凸があり、板厚も不揃なので石材用ディスクサンダーで削ったり切り合わせながらの作業となります。

4. テラスの板石貼り

柵の基礎ブロックの化粧貼りが終ると、化粧貼りの石に当たらないように敷石端部の線を決めます。また敷石天端の高さも決め、水糸を張り、その水糸に合わせて板石をすえて行きます。

今回使用した板石はナチュラルストーンの割り肌仕上げのもので、寸法は $300\text{ mm} \times 300\text{ mm} \times 25\text{ mm}$ の仕上げとなっています。

板石貼りの基礎施工は人間程度しか乗ることがないので下地の土をよく転圧した後、 $2\sim3\text{ cm}$ の砂基礎で行います。

通常板石貼りの基礎施工は砂を全面に敷き詰めて転圧してから板石を並べるのですが、使用した板石は自然石を割り出したもので1枚の板石の両端でも厚みが異なるほど不揃いであるため1枚ごとに砂を敷き、仕上がり面の高さを調整しながらの板石貼りとなります。また辺の長さも加工精度がラフなため、目地が合わないときは一度置いた板石を取り替えなければならない事も生じます。



板石貼り施工状況



辺の長さも不揃

柵と反対側の端部は植栽部との高さの違いがあることと、板石がずれないようにするため御影石の縁石で押さえます。

5. エントランスの造作

エントランス部にはサビ御影敷石(300×600×60)を敷きます。ひねりの勾配が入っているため、そのまま据えると敷石の一端が浮き上がった状態になるので、このような場所は石を三角に切り段差が生じないように敷きます。敷石の両側にはレンガ状のナチュラルストーンを並べてあります。



板石貼りと縁石の設置



エントランス部の造作

6. テラスの完成

植栽場所を作り、六方石の燈籠を設置するなどしてテラスの完成



六方石で囲った植栽場所



六方石灯籠



テラスの完成写真



土留めに着工



改造後

元のページへ戻るにはブラウザの(戻る)ボタンをご使用ください。